

第 1 回委員会の意見まとめ

項目	主な意見等
担い手	○ 担い手の高齢化や参加者の固定化が問題。介護予防の機能強化（ネットワーク、サロン等）をベースとして、幅広い人材の活用を進めることに解決のヒントがあると思う。 ○ ふれあいサロンやネットワーク、生活支援コーディネーターなど高齢者が高齢者を支える仕組みづくりが進められているが、それが定着することも大切であり、地域の活動として育てることが大事である。 ○ 認知症サポーター養成講座を受講したらそれで終わりではなく、その後に役立ててもらう場づくりが重要である。 ○ 高齢者を取り巻く様々なサポーターが必要となるが、絶対的に不足している介護支援の担い手をいかに確保するかが重要である。担い手確保の必要性を課題に明記し、どういう方の協力を仰ぐか、今後の具体的な取組みを検討することが必要である。 ○ 介護等を行うことでポイントがたまり、将来自分に介護が必要になった際に、取得したポイントに応じてサービスが受けられる制度など、シニアボランティアを活用するための斬新な取組みを考えることも重要である。
連携強化	○ 安心情報キットについて、南区の医師会が医療情報に特化した安心カードに加え、訪問看護事業所や居宅介護支援事業所がデータを入れて活用する動きもある。また、民生委員や自治協等による避難行動要支援名簿やふれあいネットワークの見守り対象者も連動させ、地図上で結合するといった新たな取組みの動きもある。 ○ 配食サービスと同時に見守りをして自治体に報告する事例もある。事業者と自治体が一緒に高齢者支援に取り組むようなことを検討してほしい。 ○ 孤独死の問題もあり、見守りのために、行政と介護事業者、不動産事業者が連携する仕組みづくりができれば良いと思う。 アパートを丸ごと借り上げてサブリースするなど、様々な仕組みが広まっている。仕組みの選択肢を広げなければニーズに対応できる受け皿は増えない。 ○ 高齢者 110 番ステッカーといった高齢者との関わりをつくるのが徘徊問題の解決につながると思う。 ○ 学生は有力な地域資源だと思う。高齢者も含めた多世代型の食事会として「みんなの食堂」を実施したところ、高齢者が一番喜んでおり、学生と話ができてよかったという意見が多かった。 高齢者との触れ合いにより学生も人間的に育つ。こういった仕組みを大学も一緒に考える必要があると思った。
民間賃貸住宅・空家の活用	○ 流通されない空家の活用について、可能性を検討することが課題である。幅広い問題に対応するためには、空家の活用も考えるべきだと思う。 ○ 福祉事業者は事故物件に対するリスクの重大性に関する認識が薄いため、共通認識が必要だと思う。
啓発教育	○ 年を取ればいつかは死ぬということを自覚し、死後は誰かに迷惑をかけてしまうということを自覚する教育も必要だと思う。
コミュニティ	○ コミュニティは、これから起きることに備える仕組みとして、介護予防・健康づくりのために行うべきだと思う。
リフォーム・バリアフリー	○ 相談者を建設業者や大工まで繋げる仕組みが必要で、特に持家の課題だと思う。住み続けたい人のために、民間事業者を巻き込む仕組みづくりが必要だと思う。 ○ いきいきセンターを住まいの相談窓口の入口として機能させても良いと思う。 ○ 高齢者はどこまでリフォームしたらいいか分からないところもあり、業者と話し合いをして決めるのが難しい。 福祉住環境コーディネーターなどの資格を持つ者が間に入り手伝う仕組みもあればいいと思う。
サ高住	○ サ高住は入居率が高まっており、供給が追いついていない。需給のバランスをどう捉えるかが問題である。 ○ サ高住は地域包括ケアシステムの中の住宅だと捉え、地域に目を向けるため地域との関わりづくりが必要である。 ○ サ高住は自立した高齢者の居住が多いため、地域との関わりは積極的に検討すべきだと思う。
市営住宅	○ 高齢者・身体障がい単身者世帯の募集倍率が非常に高い。市営住宅は住宅セーフティネット制度の砦であり、その役割をいかに果たすかが重要である。

※ 回答を保留した質問

《質問》 住宅改造相談センターの相談件数が減少した理由は何か。	《回答》 住宅改造相談センターは、介護保険制度開始前の平成 5 年 7 月に開設され、身体機能の低下した高齢者やその家族が安全に生活できるような住宅改造方法や、同時期に開始した高齢者住宅改造助成制度に関する相談や情報の提供を行ってきた。高齢者が増加する中、住宅に関する相談窓口の必要性があると考えられるが、相談件数は年々減少傾向にある。 その理由として、新たに建設される住宅がバリアフリーに配慮されていることも多くなり、住宅を改造する必要のある住居が少なくなっていることが考えられる。また、近年、地域包括支援センターなどの相談窓口が充実したことも一因と考えられる。
--	--